

地域おこし協力隊通信 (No. 56) 違いを知って好きになる

地域おこし協力隊として町のあちこちを巡るなかで、カメラを持ち歩くようになりました。7月に刈り取る超早場米、どこまでも続くオーギ畑、川でダクマを捕る人の姿。移住者の目から見て「種子島らしい」素敵な景色は数あるものの、私が特にお気に入りなのは、長浜海岸に沈む夕陽。私の地元の宮城県は太平洋側に面しているため、夕陽は山に沈んでいくものでした。種子島は四方を海に囲まれているので、朝陽も夕陽も、海から現れて海に沈みます。これがあまりに新鮮で、四季の移ろいと同じくらい太陽の動きに心を動かされています。

そんなお気に入りの西海岸に沈む夕陽の写真を実家へ送ったところ、意外なことに、見慣れたはずの山に沈む夕陽の写真を父が送ってくれました。高く覆い茂った山の間から覗く太陽と、負けじと灼けるように赤い紅葉。その見慣れたはずの景色に、いたく感動してしまっただけです。「違いがあって、それぞれ綺麗なんだ」と。



そんなことを考えながら、本州と種子島町の違いを知って、それぞれの好きどころが増えている日々です。コロナ禍で町の人とお話しする機会が減っている今、町内散策を更に続け、心に残る景色を増やしていきたいと思っています。

ただ本音を言えば、やはりフアインダーの先には町民の笑顔が映っていて欲しいものです。

—湯目知史(ゆのめともふみ) —

中種子町地域おこし協力隊員。

宮城県出身。種子島の美しい瞬間を文字にして伝えるライター。

子供たちの未来を支えるICT

納官小学校

納官小学校は、町の指定を受け、中種子町学習情報センターとして、情報教育関連の機器やシステムの先行導入を行っているっており、子供たちにとって意識付けさせるために、普段から持ち帰って家庭学習に活用しています。

8月20日の出校日では、Web会議システムを使ったオンラインで出校日を実施しました。

子供たちは、担任の指示で、難なくシステムに入り、全児童が端末上で顔を合わせることができました。

久しぶりの担任の先生や友達の顔に、どの児童もうれしそうに笑顔で話していました。

また、2学期のスタートも、コロナウイルス感染症対策のため、各教室で自分のタブレットを使ってオンラインで始業式に参加しました。

子供たちのICT活用スキルの高さについては、既に大人顔負けのところまで来ており、職員も負けじと一緒に切磋琢磨しながら日々取り組んでいます。これからも、他校の参考になるような情報を発信できるように取り組みを進めていきます。



オンラインでの出校日の様子



タブレットを使ったオンライン始業式